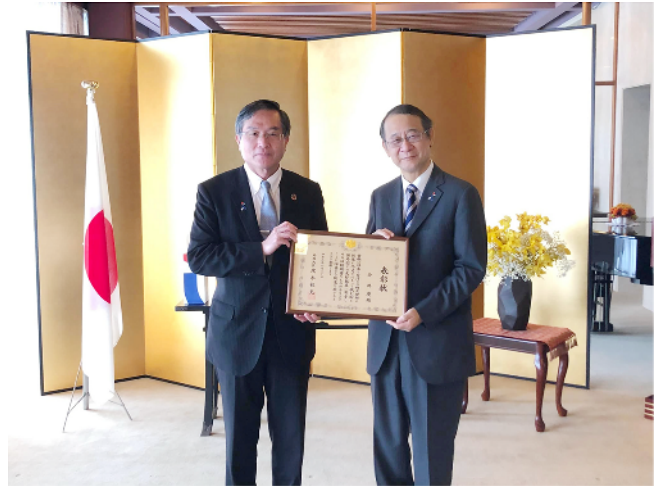


令和3年度 外務大臣表彰 台湾人受賞者に対する表彰式の実施について

外務大臣表彰は、日本との友好親善関係の増進に特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるものです。今年度は徐興慶・中国文化大学学長、居留問題を考える会および台湾のロックバンドグループ・滅火器 Fire EX. が受賞されました。ご功績に対し、衷心より敬意と感謝を表します。

泉裕泰・当協会台北事務所代表より11月17日に徐興慶氏及び居留問題を考える会に対して、12月25日に滅火器 Fire EX. に対して表彰状が授与されました。



泉代表より賞状授与

徐興慶氏（中国文化大学学長）

功績概要：日本と台湾との相互理解の促進

徐興慶氏は、1992年に九州大学で国史学の博士号を取得された後、一貫して台湾における日本研究の基盤強化と推進に多大な貢献をされてきました。2013年台湾大学に日本研究センターを創設し初代主任を務め、人文科学分野と社会科学分野のバランスを重視した日本研究を提唱。2018年には中国文化大学の学長に就任後、同大学にも日本研究センターを創設したほか、東アジア人文社会科学研究院を設立し、同大学の日本研究の基盤強化を推進。また、2019年11月に台湾で初めて開催された「東アジア日本研究者協議会第4回国際学術大会」（日本、台湾、韓国、中国の日本研究者による学術大会）を主導するなど、台湾における知日派育成に貢献されています。

居留問題を考える会

功績概要：領事、移住事業の推進に貢献

居留問題を考える会は、1999年1月発足の日台国際結婚家庭の日本人配偶者を中心とした台湾で最も規模の大きい在留邦人の団体です。現在、約480名の台湾在住会員が所属されています。国際結婚家庭の居留環境の改善を目的に、関係機関への陳情・働きかけ、台湾における居留・生活情報の提供の他、居留問題の相談や法律問題等の座談会・講演会を各地で開催されています。こうした活動を通じて、長年にわたり、必要な居留情報を提供・共有する場として、台湾在住邦人の生活・福祉向上に貢献されています。



泉代表より賞状授与

滅火器 Fire EX.

功績概要：日本と台湾との相互理解の促進

滅火器 Fire EX. は、2012年に始まった東日本大震災復興のため被災地にライブハウスをつくる「東北ライブハウス大作戦」に参加し、その後も同作戦のPR活動を継続。震災5年目の2016年には被災地で撮影したMVとともに復興応援ソング「継続向前行 Keep on Going」を発表。撮影で訪れた岩手県宮古市とその後も野球交流等を続けました。震災10年目の2021年3月には、被災地へのエールと日台の友情をテーマにした新曲「希望の明日」を発表。日台友好親善に大きく貢献されました。



泉代表より賞状授与

外務大臣表彰を受けて 徐興慶氏

この度、私は令和3年度、台湾の「日本外務大臣表彰」の一人として受賞することになりました。申すまでもなく、これは台湾における日本研究の発展にご支援をいただいた皆様方の多大なご尽力とご指導の賜物であります。私はこれまで広い意味の日本研究の分野で、少しずつその進展を図り、日本をはじめ、東アジア各国の有識者とともに研究活動と若手研究者の育成について取り組んで参りましたが、図らずも、今回、これらの取組をこのような形で評価していただき、名誉ある賞を賜りましたことは、この上ない喜びであり、心より深く感謝申し上げます。

台湾における日本研究は、本来「地域研究」の一端を構成しております。言い換えれば、この地域研究は、東アジア国際社会の関連研究と連携することは重要であります。ですから、我々は東アジアの視野を以て日本文化の深層や民族・国家への理解、多領域での日本研究を深化させ、人材集結などを図る必要があります。さらに日本研究の分野で台湾の産・官・学界と日本側との関係を高めるために、次世代の優秀な人材育成ができれば、日台双方がより深く結びついていくことができると確信致しております。

今回の受賞は、この分野でより良い成果が生まれたのであれば、私個人のことだけではなく、偏にこれまで導いてくださった先輩方や同僚、学界の有識者、並びに日本台湾交流協会、国際交流基金などの機関のご支援のお陰であると、身に染みて感じております。また台湾の日本研究にご尽力をくださった方々にとって、大きな励みとなるものと考えております。

これからも台湾だからこそ可能な日本研究を発信し、各国の大学の研究者及び研究センターの横の連携のみならず、「東アジア日本研究者協議会」

や環太平洋圏の「国際日本学研究所」のグループと相互に協力する必要があります。これからも、この受賞を励みとし、微力ではありますが、引き続き有識者と、より一層の努力を重ね、安定した次世代日本研究者育成のシステム作りができるように精進して参りたいと存じます。

最後になりますが、今後とも皆様方のお力添えを頂きながら、台湾における日本研究による日台関係の促進に尽くしていきたいと思っております。そして日本台湾交流協会のますますのご発展をお祈り申し上げ、私のお礼の言葉に代えさせていただきます。

2021 年度外務大臣表彰を受賞して 居留問題を考える会 会長 大成権真弓

2021 年は、居留問題を考える会にとって思いもかけず、外務大臣表彰という栄えある賞を賜ることとなり、この上ない喜びの年となりました。この場をお借りして、これまで当会にご支援ご協力をいただきました全ての皆様に深く感謝申し上げます。

居留問題を考える会は、1999 年 1 月に発足して以来、これまで在台外国人、特に日本人の台湾の居留環境の改善のために各種の活動を行っているボランティアグループです。発足当初は国際結婚をした専業主婦の日本人女性が主なメンバーでしたが、現在会員は男女を問わず、日台国際結婚の日本人・台湾人、日本人の永住者など台湾全土に約 470 名います。

今回の受賞を機に、これまでの活動を振り返ると感慨無量です。実に 22 年間という長い年月の間には、さまざまな社会変化や法律改正などがあり、その都度情報を求めて走り回ったことが思い出されます。後に当会の中心メンバーになる有志が活動を開始したのは 1997 年頃です。

当時台湾では、外国人には永住権がなく、国際結婚をしても、台湾人の配偶者と離別すると、台湾人の家族でありながら、外国人である私たちは台湾に住むことができなくなる状況でした。そこで、永久居留制度確立のために入出国及び移民法の早期成立を願い、待っているだけでなく自分たちで何かできることはないかと台湾各地の日本人の参加している親睦会を探し、同じ境遇にある日本人妻たちと手探りでどうにか連絡を取り合い、署名活動を始め、更に立法院での公聴会開催へと進めて行ったのが今に至る活動の原点です。

そして、会員一人一人が自分たちのできる範囲で自分たちの居留環境をよりよくしていこうという参加型のボランティアグループとして、1999 年より居留問題を考える会という名称で各種の活動を行ってきました。

目下、台湾で生活する国際結婚の日本人、永住の日本人のためにその居留環境の改善、とりわけ法律面の改善や情報収集を主に、日本人が参加する各地の親睦会や日本語クラスなどとネットワークを構築しています。会員に対しては座談会や会報を通じて情報提供し、また個別相談や手続きの指導等を行い、その他専門家による講演会や勉強会も開催しています。対外的には法律改正のための請願や台湾の政府機関への翻訳や通訳での協力、在台の日本人が孤立しないように日本人の参加する各会を紹介した連絡リストの作成配布、日本および台湾の学術研究者が行う国際結婚や日本人の海外移住に関する調査への協力、日本の国籍法改正のための請願署名活動への協力のほか、ウェブサイトの公開などを行ってきました。

この度、これらの長年の活動を日本政府から評価していただきましたこと、当会役員並びに全会員にとって大変な栄誉となり、今後の活動の励みになりました。

また、この度の受賞および表彰が、国際結婚や永住だけでなく台湾で生活する全ての日本人、そ

れを研究している研究者にとって、大きな励みとなるものであると信じております。

これを機に、私どもは一層、台湾に暮らす日本人の居留環境の改善および日本と台湾の交流のための活動に寄与して参る所存でございます。今後ともご支援ご協力のほどお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

外務大臣表彰を受けて 滅火器 Fire EX.

私たち滅火器が、日本の外務大臣表彰を受賞するという栄誉に浴する日が来ようとは、想像もしていませんでした。

私たちが青春時代に目覚めた音楽の世界は、日本に彩られていました。私たちは先進的な日本の音楽やヴィジュアルアート等、あらゆる日本文化の影響を強く受けてきた世代です。大人になり、ミュージシャンとして日本と数多くの交流を持つことができるようになったことは、本当に幸せなことだと感じています。たくさんの日本の友達ができただけでなく、お互いの文化を深く知ることができました。私たちはしばしば、日本の友達とはお互いを「兄弟」と呼び合い、その深い友情はもはや「家族」のようだと話しています。

日本の人たちと交流することも、相手を思い遣うことも日常の当たり前のことであり、辛い時は互いに助け合い励まし合うのは、至極当然のことです。

このような自然な交流の積み重ねの結果として、外務大臣表彰という評価をいただくこととなり、嬉しい驚きを感じるとともに、少し恐縮しています。日本の友人たちからも、たくさんのお祝いの言葉をもらいました。今回の受賞は、滅火器だけではなく、支えてくれた日本の皆さんのものでもあってと思います。私たちと日本の皆さんとが続けてきた交流の一つ一つ、私たちの友情に対する表彰なのだと思います。この度の外務大臣

表彰に、改めて心からの御礼を申し上げます。これは、私たちの人生における大切な宝物です。

コロナが去った後に再び日本に行き、「私たち」に与えていただいたこの賞を共に分かち合う日を、待ち望んでいます。

だからこそ、本年（2021年）、日本台湾交流協会から「日台友情」シリーズのテーマソング制作の打診をいただいた時は、本当に嬉しかったです。

私たちの「友情」の実践、私たちと日本との厚い友情が、評価されたのだと感じました。

私たちは2008年頃から、日本のバンドとの交流を始めました。2011年3月11日、私たちは米国での音楽イベントに出演するため、成田空港で乗り換えてテキサス州に向かいました。ダラス空港に降り立った私たちの目に飛び込んできたのは、私たちが日本を離れてすぐに起こった、信じ難い光景でした。テレビ画面を見ながら溢れる涙を、抑えることができませんでした。祈る気持ちで、日本の友人一人一人に連絡を試みました。

震災発生後に世界が目撃したのは、困難に際しても団結し秩序を維持する日本人の姿でした。これほどの大きな災害に心が引き裂かれる思いでしたが、同時に、日本は必ずこの危機を乗り越えるだろうという確信を持ちました。人々は必ず強く立ち上がり、故郷を再建するだろう、そして亡くなった人や行方が分からなくなった人の分も背負い、大切に日々を生きていくはずだと、信じていたからです。

その時の確信が正しかったことは、東日本大震災の発生から5年後の2016年、MV撮影のために東北地方を訪れた際に、証明されました。

被災地で出会った人々は、がれきの中から少しずつ、力いっぱい未来を積み上げていました。握り合った被災地の人たちの一つ一つの手のぬくもり、言葉は通じなくても目と目で語り合った一つ一つの視線はみな、力強さに溢れていました。

この年は、解散の危機を迎えていた滅火器が、

再び歩き出した年でもありました。私たちのグループリーダー、メインボーカルの楊大正も、人生の激変に直面しながら、前に向かって歩き出そうとしていました。東北の旅が、被災地の人々が、私たちに力を与えてくれたのです。ですから私たちにとり、東北は、再び生きる力を取り戻した場所、第二の故郷なのです。今の滅火器は、あの2016年の東北からスタートしたのです。

私たちは2015年末に、自らのレーベルである「火器音楽」を設立し、2017年には、音楽祭「火

球祭」をスタートしました。台湾の音楽業界に貢献することに加えて、ここを「日台音楽交流」のプラットフォームにすることも、私たちの重要な目標です。私たちは毎日学び続け、今も成長を続けています。コロナが終息した暁には、音楽を愛する日台のたくさんの人々と共に、より素晴らしい時間を創り出して行きたいと思っています。これからも、共に歩き続けて行きましょう。

(原文は中国語、台北事務所にて翻訳)